

# ブルガリア ベネ計画の2基は断念 コスロドイの1基に差し替える案 浮上

なっていた資金調達問題が原因で、代わりに原子力インフラが整った既設のコスロドイ原子力発電所に、ベネ計画用の機器を流用して新たな原子炉を一基建設する案が浮上。すでに十一日の閣議で原則決定されたこの報道も伝えられている。

## 中国と原子力協定締結 トルコ原発建設で交渉開始へ

トルコ政府は九日、中国と原子力の平和利用分野における二国間協力協定、および双方のエネルギー省が同分野での協力同意書(LOI)に調印したと発表した。

二〇一三年までに三か所原発を建設するという目標達成のため、アックユ原発建設で協力を決めたロシアやシノップ原発で交渉中の日本と韓国のほか、中国とも原子力協力



ブルガリアのエネルギー省副大臣と中国のエネルギー省副大臣が協定を締結したと発表された。

ブルガリア議会は三月二十九日、ロシア型PWR(VVER)二基の建設が予定されていたベネ計画を断念するとの政府決定を百二十対四十五で承認した。かねてよりネックと

の国境に近いベネ地点で建設工事が中断していた二基を二〇一四年までに完成させることとし、

二〇〇八年一月にブルガリア電力公社(NEK)がロシアのアトムストロイエクスポート(ASE)社と建設契約を締結。百

万kW級のVVER(AES92)設計を採用することになった。

## 秦山II-4号機 が営業運転開始

中国

中国核工業集団公司(CNNC)は八日、同国十五番目の商業炉となる秦山原子力発電所II-4

号機(PWR、六十五万kW)が正式に営業運転を開始したと発表した。

同発電所二期工事の四基がすべて完成したことになり、CNNCでは第一

次五か年計画(二〇一〇〜一〇一五年)期間中の着工が明記されていた二期工



営業運転開始を祝う関係者達

の3、4号機建設計画が完全に終了したと宣言。同国の自主

開発による標準大型PWRの建設・管理・操業



秦山II-4号機建設現場の様子

設計が完全に終了したと宣言。同国の自主

開発による標準大型PWRの建設・管理・操業



関係者による説明会

設計が完全に終了したと宣言。同国の自主

開発による標準大型PWRの建設・管理・操業

る可能性が示唆されており、日本にとって手強い競争相手となりそうだ。

今回の協定文書は、トルコのT・R・エルドアン首相(写真左)が北京の温家宝國務院首相を公式訪問したに合わせて調印されたもので、多くの分野における二国間協力の一つ。これに先立ち、二月には中国の習近平國家副主席がトルコを訪れ、同国北西部イネアタにおける第三原発建設計画の協力交渉開始でトルコのA・ババジャン副首相と

合意に達していた。

について交渉していくのが目的。詳細は明らかにされていないが、現地報道では中国がシノップ計画の交渉相手として加わったと発表された。

同国政府はまた、ベネ用に調達済みの機器をコスロドイ原発で検討中だった7号機増設に利用することは「はるかに現実的」とする分析結果を公表。すでに既存の原子力インフラを整備済みであるため、戦略的な投資家の募集にも有利に働くほか、百万kW級原子炉

一基の建設であれば、ブルガリアの財政能力およびエネルギー需要にも見合うと指摘している。

ロシアの総合原子力企業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

## 燃料の再装荷を許可 加安全委がポイントプロード

カナダ原子力安全委員会(CNSC)は、二〇〇八年から改修工事中だったポイントプロード原子力発電所(CANDU、六十八万kW)での燃料再装荷を許可した。



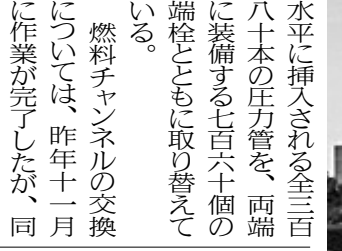
燃料再装荷作業の様子

燃料再装荷作業は、昨年十一月に完了したが、同炉の運転認可切れが今年

の二月十七日に迫っているため、CNSCは昨年十月と十二月に同発電所の運転認可を延長し、燃料再装荷作業の許可を出した。

燃料再装荷作業は、昨年十一月に完了したが、同炉の運転認可切れが今年

燃料再装荷作業は、昨年十一月に完了したが、同炉の運転認可切れが今年



燃料再装荷作業の様子

燃料再装荷作業は、昨年十一月に完了したが、同炉の運転認可切れが今年

の二月十七日に迫っているため、CNSCは昨年十月と十二月に同発電所の運転認可を延長し、燃料再装荷作業の許可を出した。

燃料再装荷作業は、昨年十一月に完了したが、同炉の運転認可切れが今年

## 地元企業と協力覚書 ロシア チェコ計画の受注に備え

ロシアがチェコ企業と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

同建設計画ではロスアトム社傘下のアトムストロイエクスポート(ASE)社がロシアのキドロプロ社、チェコのスコア社と企業連合を組んで入札に参加。ウエスチンクハウス社、仏アレバ社なども

に、昨年十月にチェコ電力業ロスアトム社のマーケティングを担当するルス・アトム・オーバシス社は「このほど、チェコの地元企業十五社とすでに成計画の受注に備えて、チェコとロシアの企業十社と協力了解覚書(MOU)を締結した。

## パンリー2で ベル1の事象 フランス

原子力発電所(写真)2号機(PWR、百三十八・二万kW)で五日に軽微な火災と二次冷却水漏れがあったが、環境への影響

がなかったことから、原子力安全規制当局(ASN)は同事象を暫定的に国際原子力事象評価尺度(IINES)の七段階中、下から二番目のレベル1と評価している。

ASNによると、五日の昼頃、2号機の原子炉建屋で火災が発生し、同炉は自動的に停止。仏電力(EDF)のチームと地元消防団が建屋内に入り、燃えていた油の炎を消し止めたほか、EDFは火災を伴う緊急時の対応策を実行に移した。

また、同日の午後七時半頃、同炉の一時冷却系から通常値を超える漏れが検知されたが、EDFは一次系の圧力と温度を下げるなどの手続きを実行。冷却水は専用水槽に回収され、漏れも収まったことから、ASNで

ASNによると、五日の昼頃、2号機の原子炉建屋で火災が発生し、同炉は自動的に停止。仏電力(EDF)のチームと地元消防団が建屋内に入り、燃えていた油の炎を消し止めたほか、EDFは火災を伴う緊急時の対応策を実行に移した。

また、同日の午後七時半頃、同炉の一時冷却系から通常値を超える漏れが検知されたが、EDFは一次系の圧力と温度を下げるなどの手続きを実行。冷却水は専用水槽に回収され、漏れも収まったことから、ASNで

ASNによると、五日の昼頃、2号機の原子炉建屋で火災が発生し、同炉は自動的に停止。仏電力(EDF)のチームと地元消防団が建屋内に入り、燃えていた油の炎を消し止めたほか、EDFは火災を伴う緊急時の対応策を実行に移した。

また、同日の午後七時半頃、同炉の一時冷却系から通常値を超える漏れが検知されたが、EDFは一次系の圧力と温度を下げるなどの手続きを実行。冷却水は専用水槽に回収され、漏れも収まったことから、ASNで

## カトーバーで 異常事態宣言 米 国

米サウスカロライナ州で稼働中だったカトーバー原子力発電所1号機で四日の午後八時過ぎ、外部電源を喪失する事象が発生したが、非常用ディゼル電源が設計通りに起動したため、従業員や外部環境への放射能放出などの影響はなかった。

事業者のデューク・エナジー社は直ちに米原子力規制委員会(NRC)の四

米サウスカロライナ州で稼働中だったカトーバー原子力発電所1号機で四日の午後八時過ぎ、外部電源を喪失する事象が発生したが、非常用ディゼル電源が設計通りに起動したため、従業員や外部環境への放射能放出などの影響はなかった。

事業者のデューク・エナジー社は直ちに米原子力規制委員会(NRC)の四